

Japanese Society for Day Care Treatment
日本デイケア学会

NEWS No.27

日本デイケア学会広報委員会
2013年8月20日発行
日本デイケア学会事務局
東京都文京区本郷2-17-13
(有) エム・シー・ミュージズ内
TEL: 03 - 3813 - 6368
FAX: 03 - 3813 - 6368
E-mail: info@daycare.gr.jp
http://www.daycare.gr.jp

僕の街へようこそ

本年の開催地松本は山紫水明の地である。上高地から流れ出た水は梓川の清流となり、松本で奈良井川と合流し、犀川となって北に向かい、長野市で千曲川と合流し、新潟県境で信濃川と名称を変え、長岡を経て新潟に至り日本海に注ぐ。日本一長い川である。その水は豊かな大地を育み美しい自然を造り出した。人々は耕し米を作り、川に遊んで岩魚、山女魚、鮎を漁った。安曇野の風景はあの童謡「ふるさと」に謳われている。

“出逢いはいつでも偶然の風の中♪”…さだまさしの「天までとどけ」の歌い出しである。この歌には素敵なフレーズが幾つもある。“ふれあいのかけらが人生を変えてゆく ことばでなくものでもない ひとつの出会いから♪…”。僕の街、松本は、小さな街である。仙台、名古屋、福岡、過去3回の開催地はみな大都市であった。しかし、ふるさとというにふさわしい要素をたくさん備えた地方都市である。今年の大会は、この小さな街での出会いを大切にしていきたい。“胸ときめかせ君のふるさとになりたがっている♪”。

大会テーマは「デイケア治療マンネリズムの打破」とした。診療報酬上規定されているデイケア施設基準・人員配置・治療プログラムは、硬直化しており、多様な治療法を導入し治療効果を上げることを妨げている。しかし、今大会にエントリーされた90題を超す演題を見るとそれぞれ工夫を凝らし、多様な治療法を試みている様が見取れる。今後のデイケア治療の広がりにとって喜ばしい

日本デイケア学会第18回年次大会 大会長 関 健

限りである。ポスター発表での熱い討論を期待する。

特別講演Ⅰは、信州大学天野直二教授に「老年期について思うこと」と題して講演していただく。特別講演Ⅱは、厚生労働省精神保健福祉課長北島智子先生による「精神障害者の地域移行・地域定着の推進に向けて」と題して講演していただく。シンポジウムⅠは、「医療観察法通院処遇におけるデイケアの役割」を語っていただく。シンポジウムⅡは、「デイケア治療における多様な治療法の効果」について討論を深めていただく。シンポジウムⅢは、過去3大会(第15、16、17回)の3大会長による「精神科デイケアの現在と未来」について俯瞰していただく。教育講演は、Ⅰ「デイケアスタッフが行うアウトリーチサービス」、Ⅱ「ユース・デイケアの治療効果と可能性」、Ⅲ「リワークプログラム発展の背景と治療的要素」、Ⅳ「認知症デイケア、デイサービスへの提言」の4題である。ランチョンセミナーは、一日3題ずつ開催され、参加者全員分の食事が用意されている。恒例の研修会は、精神科分野と高齢者(認知症)分野の2講座である。大会終了後の翌日は、施設見学会もある。

コンサートは、ソプラノ歌手お二人により、オペラのアリアや日本の曲をソロ・デュエットで演奏する予定。懇親会前のひとときをお楽しみいただきたい。

当時は秋の観光シーズン。上高地などが待っている。“ようこそ僕の街へようこそ♪…”。お宿のお申し込みはお早めに。

精神科デイケア等に関するアンケート調査報告

日本デイケア学会調査研究委員会委員長 原 敬造

日本デイケア学会調査研究委員会では、集団療法、認知行動療法、SST、心理教育、リワークや就労プログラムなどの治療的小グループ活動の実態を把握することを目的としてアンケート調査を行った。今回、集計が終ったので結果を公表する。

アンケートを精神科デイケアを行っている施設に送付し分析可能な557施設について解析を行った。今回は精神科デイケアの結果について報告する。

病床を有している施設は、375ヶ所で平均病床数は248.5床であった。病床を有していない施設は168ヶ所であった。施設基準では、大規模デイケア300ヶ所、小規模デイケア156ヶ所、平均利用人数は30.2人であった。一日の利用人数が30人以下の施設は87ヶ所(15.6%)、20人以下の施設は170ヶ所(30.5%)、10人以下の施設は92ヶ所(16.5%)であった。利用人数が30人以下の施設が全体の62.7%を占めていた。疾患別や目的別に対象者を限定した治療的プログラムを組んでいるのは361ヶ所(64.8%)、いないのは196ヶ所(35.2%)であった。実施しているプログラム(複数回答可、括弧内の数字は全施設での割合、実施している施設での割合の順)は集団療法が125ヶ所(22.4%、34.6%)、集団的認知行動療法(認知療法、行動療法)が121ヶ所(21.7%、33.5%)、社会生活技能訓練(social skills training)が275ヶ所(49.4%、76.2%)、心理教育プログラムが201ヶ所(36.1%、55.7%)、就労(就学)支援プログラムが237ヶ所(42.5%、65.7%)、リワークプログラムが64ヶ所(11.5%、17.7%)、家族会や家族教室が164ヶ所(29.4%、45.4%)、発達障害支援プログラムが30ヶ所(5.4%、8.3%)、早期介入プログラムが14ヶ所(2.5%、3.9%)であった。

疾患を限定しているのは27.7%で、対象疾患としては統合失調症、気分障害、アルコール依存症、薬物依存症、神経症性障害、発達障害、高次脳機能障害などであった。また活動に利用期限を決めているのは27.4%で99%の施設が更新を認めていた。これらの活動に診療報酬の

加算が必要と回答したのは68.2%であった。

その他の活動についての調査では、デイケアでハローワークや自立支援事業所などに同行訪問しているのが325ヶ所(58.3%)、デイケアで家庭訪問もしくは訪問介護を実施しているのが258ヶ所(46.3%)、メンバーについて関連機関等と時に「ケア会議」を持っているのが433ヶ所(77.7%)であった。またメンバーの個別受け持ち制が311ヶ所(55.8%)で導入されているなどきめ細かい対応がなされていることが分かった。

そのほかスタッフを基準以上に配置しているのは321(57.6%)、スタッフの補充に困難を感じているのが392ヶ所(70.4%)であった。なかでも看護師の補充に困難を感じている施設は252ヶ所(45.2%)であった。

【まとめ】

今回の調査から以下の点が明らかになった。

- ①平成23年度630調査によれば、病床を持つデイケア数と病床を持たないデイケアの比がおおよそ2.5:1であるので、今回の調査では、病床を持たない施設からの回答の割合が多かった。
- ②平均利用人数には大規模なデイケアの利用人数が反映していた。実際は少人数のデイケアが多い事態が明らかになった。
- ③小集団活動ではSST、就労(就学)支援プログラム、心理教育プログラム、家族会や家族教室がよく取り組まれているプログラムであった。
- ④多くの方が診療報酬上の加算が必要と考えていた。
- ⑤就労支援での同行訪問、訪問活動、ケア会議など診療報酬上の評価のない活動についても活発に行われている現状が明らかになった。
- ⑥スタッフを基準以上に配置していたり、とりわけ看護スタッフの補充に困難さを感じている施設が多いことが分かった。

以上を踏まえて今後実態調査を各施設にお願いする予定である。

日本デイケア学会 第18回年次大会松本大会のご案内

大会テーマ

「デイケア治療マンネリズムの打破」

大会長

関 健 (社会医療法人城西医療財団 城西病院 理事長・総長)

副会長

遠藤 謙二 (医療法人友愛会 千曲荘病院 理事長・院長)

樋掛 忠彦 (長野県立こころの医療センター駒ヶ根 院長)

大会URL

<http://www.daycare18.org/>

会 期

平成25年 10月10日(木) ~ 10月12日(土)

※学術大会 10月10日(木) 11日(金) /
研修会 10月11日(金) / 施設見学会 10月12日(土)

プログラム

学術大会 日 時: 平成25年10月10日(木)・11日(金)
会 場: キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)
〒390-0311長野県松本市水汲69-2
TEL 0263-34-7100
<http://www.matsubun.jp/>

参加費:

会 員	事前登録	7,500円	当 日	8,500円
一 般	事前登録	8,500円	当 日	9,500円
当事者・家族・学生		4,000円		
懇親会		7,000円		

※事前参加登録は8月末日まで今大会ホームページにて受付けます。

開会式 来賓 菅谷 昭(松本市長)

大会長講演 「**デイケアは治療法か治療の場か**」

演者 関 健(社会医療法人城西医療財団 城西病院 理事長・総長)
座長 窪田 彰(医療法人社団草思会 錦糸町クボタクリニック 理事長)

特別講演 I 「**老年期について思うことー老年期の心性、そして認知症に言及してー**」

演者 天野直二(信州大学医学部精神医学講座教授/信州大学医学部附属病院病院長)
座長 関 健(社会医療法人城西医療財団 城西病院 理事長・総長)

II 「**精神障害者の地域移行・地域定着の推進に向けて**」

演者 北島智子(厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課長)
座長 篠崎英夫(社会医療法人城西医療財団 顧問)

III 「**槍ヶ岳とともに**」

演者 穂苅康治(槍ヶ岳山荘グループ代表)
座長 関 健(社会医療法人城西医療財団 城西病院 理事長・総長)

教育講演

I 「デイケアスタッフが行うアウトリーチサービス」

演者 池淵恵美(帝京大学医学部 教授)
座長 村田志保(JA長野厚生連 安曇総合病院 副院長)

II 「ユース・デイケアの治療効果と可能性」

演者 水野雅文(東邦大学医学部精神神経医学講座 教授)
座長 吉田朋孝(医療法人清泰会メンタルサポート そよかぜ病院 理事長・院長)

III 「リワークプログラムの発展の背景と治療的要素」

演者 五十嵐良雄(医療法人雄仁会 メディカルケア虎ノ門 院長)
座長 遠藤謙二(医療法人友愛会 千曲荘病院 理事長・院長)

IV 「認知症デイケア、デイサービスへの提言—認知症介護療養病棟での試みから—」

演者 岸川雄介(社会医療法人城西医療財団 ミサトピア小倉病院 副院長)
座長 中島武志(医療法人芳州会 村井病院 院長)

シンポジウム

I 「医療観察法通院処遇におけるデイケアの役割」

コーディネーター
松原三郎(社会医療法人財団松原愛育会 松原病院 理事長・院長)
シンポジスト
三澤孝夫(国立精神・神経医療研究センター)
平岡 美和、津久江亮太郎(瀬野川病院)
長谷川直実(デイケア・クリニックほっとステーション)
連理貴司(のぞえ総合心療病院)

II 「デイケア治療における多様な治療法の効果」

コーディネーター
澤 温(社会医療法人北斗会 さわ病院 理事長・院長)
シンポジスト
稲庭千弥子(医療法人社団久幸会 今村病院 理事長・院長)
山崎郁子(東京工科大学医療保健学部作業療法学科 教授)
内野俊郎(久留米大学医学部神経精神医学講座 講師)
藤田裕太郎(JA秋田厚生連 北秋田市民病院 精神科デイケア)

III 「精神科デイケアの現在と未来—コミュニティケアの突破口として—」

コーディネーター
窪田 彰(医療法人社団草思会 錦糸町クボタクリニック 理事長)
シンポジスト
浅野弘毅(東北福祉大学せんだんホスピタル)
福智寿彦(医療法人福智会 すずかけクリニック 院長)
西村良二(福岡大学医学部精神医学教室 教授)
指定発言
福田祐典(独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所長)

一般演題

口演発表 30題 ポスター発表 63題 統合失調症, 心理教育,
プログラム実践①②③④, 就労・復職・就学支援①②③, 自立支援, SST, 高齢者・認知症

ランチョンセミナー

1 「精神科医療における心理教育の役割」

演者 後藤雅博(医療法人恵生会 南浜病院 院長)
座長 樋掛忠彦(長野県立こころの医療センター駒ヶ根 院長)
協賛 大塚製薬株式会社

2 「介護・看護・リハビリスタッフのための認知症講座 — アルツハイマー型認知症の病態と薬物療法を理解する —」

演者 川畑信也(愛知県認知症疾患医療センター長)
座長 小宮山徳太郎(社会医療法人栗山会 飯田病院 副院長)
協賛 小野薬品工業株式会社

3 「大学病院における早期作業療法」

演者 小林正義(信州大学医学部保健学科 教授)
座長 桑村 智(社会医療法人城西医療財団 ミサトピア小倉病院 院長)
協賛 ユニ・チャーム株式会社・社会医療法人城西医療財団

ランチョンセミナー

4 「認知症と転倒」

演者 梅垣宏行 (名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学 講師)
座長 稲村いづみ (医療法人研成会 諏訪湖畔病院 副理事長・院長)
協賛 エーザイ株式会社

5 「デイケアと統合失調症薬物療法」

演者 藤井康男 (山梨県立北病院 院長)
座長 中島武志 (医療法人芳州会 村井病院 院長)
協賛 ヤンセンファーマ株式会社・武田薬品工業株式会社

6 「双極性障害における生活リズムの重要性
—睡眠を基盤にしたアプローチ—

演者 長田賢一 (聖マリアンナ医科大学 准教授)
座長 遠藤謙二 (医療法人友愛会 千曲荘病院 理事長・院長)
協賛 日本イーライリリー株式会社

※ランチョンセミナーは、お弁当の整理券を受付の際お配りいたします。
数に限りがありますので、予めご了承ください。

企業展示

コンサート

日時:平成25年10月10日(木) 17時~18時

会場:キッセイ文化ホール 大ホール

出演:ソプラノ 樋口千奈美、倉科有紀
:ピアノ 永井亜希

※ソプラノ歌手による歓迎コンサート。オペラのアリアや日本の曲を
ソロ・デュエットで演奏する予定。

懇親会

日時:平成25年10月10日(木) 18時~20時

会場:キッセイ文化ホール 1F 中ホール

2013年度

第2回学会主催研修会

日時:平成25年10月11日(金) 17時~19時30分

会場:キッセイ文化ホール 3F 第1会議室・第2会議室

参加費:会員 2,000円 非会員 4,000円

1. 【精神科分野】

「地域の社会資源としての精神科デイケア

—スタッフの心構え、信頼と自由の尊重—

講師 坂井一也 (星城大学リハビリテーション学部教授)

内容 講義とグループディスカッション

2. 【高齢者(認知症)分野】

「認知症治療としての地域づくり—治療としての介護—

講師 岸川雄介 (社会医療法人城西医療財団ミサトピア小倉病院副院長)

内容 講義

※2013年度第2回学会主催研修会についてのお申し込み、お問合せは
日本デイケア学会本部 (TEL:03-3813-6368) にご連絡ください。

施設見学会

日時:平成25年10月12日(土)

1. 医療法人芳州会 村井病院

2. 社会医療法人城西医療財団 安曇野所在の施設

※定員に達したため締め切りました。

ポイント取得について

今大会では、日本精神神経学会精神科専門医資格更新にかかるポイントの取得ができます。

【お問合せ先】

【日本デイケア学会第18回年次大会松本大会事務局】

社会医療法人城西医療財団 城西病院内 企画相談室

〒390-8648 長野県松本市城西1-5-16

TEL 0263-33-6400 FAX 0263-33-9920

E-mail: info@daycare18.org

精神科デイケアへ受け持ち制を導入して

吉村美津子

当院デイケアは、平成5年に精神科デイ・ケアの認可を受け、大規模デイケアとして開所しました。現在は、精神・アルコール・重度認知症を対象とする3つのデイケアを運営し、平成23年より精神科デイ・ナイト・ケアも実施しています。

大規模の精神科デイケアにおいては、患者の状態像に応じた疾患ごとの治療計画を作成することが必須となり、利用者(以下、メンバー)のニーズや目標に応じた利用目的・実施内容を明確にして、機能を強化することが求められています。そこで、多職種による多角的な評価・計画・実践をより効果的に行うシステムの充実を図るため、昨年度より受け持ち制を導入し、当デイケアに専従している、看護師3名・精神保健福祉士2名・作業療法士1名に、当時80名程の登録メンバーの振り分けを行い、面接記録用紙を用いて各スタッフが個人面接を実施しました。

結果、導入前の「掘り下げた情報収集やメンバー全員の把握が困難で、丁寧な関わりや支援が充分でないメンバーがいるかもしれない」「自分に自信がないため、誰にどう関わればよいかわからない」という意見から、導入後は「多くの情報収集ができ、ニーズを把握することで細やかな関わりができるようになった」「関わる時間が長くなったことで状態の変化に気付きやすく、アプローチもしやすくなった」「個人面接を重ねるうちに自信が付き、関わりや援助に対して責任感が持てるようになった」など、受け持ちメンバーとの関わりが深まったことで目目細やかな援助が行えるようになったと同時に、スタッフのスキルアップにも繋げることができました。メンバーからも

「困った時は、まず受け持ちスタッフに相談すればよいとわかり安心した」「なんとなくデイケアに通所していたが、通所の意味や目的を理解することができた」「受け持ちスタッフを信頼して、今まで話せなかったことが相談できた」とうれしい報告もなされました。

反面、スタッフからは「メンバー自身が受け持ち制に拘りすぎて、受け持ちスタッフが問題を抱え込んでしまうのではないか」というデメリットも指摘されたため、その対策として、スタッフ間の情報交換と共有の場が必要と考え、職種を問わず業務内容や困っているケースの相談をしたり、専門的な支援方法をレクチャーしてもらうなどして、スタッフ間のコミュニケーションを図りました。また、スタッフミーティングでは、異なる意見も否定されることなく自由な発言ができる雰囲気作りに努め、受け持ち以外のスタッフとも連携して関わるという安心感を持つことで、デイケア内でのスムーズな職種間連携に繋げることができるよう働きかけています。

今後は、受け持ち制を定着させ、メンバーの状況把握やデイケア通所目的の明確化、さらにはメンバーが目的意識を持って取り組めるように多職種・他部門とのカンファレンスの充実を図ること、各スタッフが疾病や障害に関する基本的な知識や評価に対する共通理解を持つ必要があるため、スタッフの知識や技術を向上させるべく立ち上げた部内勉強会での教育を強化することなどの課題に対し、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

(看護師、雁の巣病院)

日本最古のデイケア!?

百田 功

公益財団法人・浅香山病院は、大正11年創設で、昭和47年には精神病床数1117床・一般病床数252床を誇る巨大総合病院であった。精神科デイケアに関しても、認可は昭和61年であるものの、その萌芽は昭和28年で、その頃にはすでに今でいう臨床心理士や精神保健福祉士を配置し、グループサイコセラピー（GPT）と称する患者社交クラブ的な集団を作り、生活療法・レク療法を始めていた。これが国内で最初のデイケアの試みだと言われている。すべてが自慢できるような話であるとは限らないが、そんな“由緒正しき”病院である割には、このことは意外と人に知られていない。

時は流れ、そんな日本最古(?)のデイケアははたしてどうなったか。デイケアの中身も当然、社会情勢・病院(経済)事情など、内外の様々な要因に影響を受ける。財団といえども公の機関ではない浅香山病院も、その波にもまれて随分様変わりしてきた。まず当時と比べれば、いわゆる精神障害者の行く場所はかなり増えてきた。集う人々も、毎日ステレオタイプな形で参加する人は減り、自分の好きなプログラムや曜日を選択して参加するような人が増えてきた。ヘルパー、訪問看護、いわゆる作業所などを併用する人も増えてきた。デイケア以外のリハビリテーション機能とデイケアの違いは何か、ここに来て、そういうデイケアの意味を改めて問い直す必要が生じてきたのである。

そこでデイケアの特徴についてそもそも考えてみたところ、長時間・多職種・多人数ということがまず頭に浮かぶ一番の特徴であることに思い至った。デイケアは、それだけの人間が何らかの形で関わらざるを得ない構造を持っている場所であるということである。色んな人びとが長時間関わるということの意味、それをここで一度整理

しておく必要があるようである。

人同士が関わりと当然色んなことが起こってくる。それはストレスにもなるし、逆に楽しいことでもあったり、人を幸せな気分させたりもする。人と関わることによって生じるこうした気分は、物との関わりや本を読んだり映画をみたりして生じる気分と、似ているようでちょっと違う。また、昔のことを思い出して感じる嫌な気分や郷愁などともちょっと違う。その違いをひと一言で言えば、ライブでリアルで「ほんまもの」で深いものであるといえる(四言?)。

それがストレスにつながれば一大事で、重大な精神的ダメージにもつながりかねない。すなわち、精神疾患はそういう人同士の関わり・脈絡の中から生まれる可能性が大きいものであるとも考えられる。しかし、だからこそ、精神的な癒しというの、そういう関わり・脈絡の中でこそ起きやすいはずである。人同士が関わる中で起こってくる様々なできごとをポジティブな方向へ展開させること、それこそが癒し・ケアであり、それができる構造を持っている場所のひとつがデイケアだと考えて、日々の業務につとめている。

(心理師、浅香山病院)

訃報：本学会の第2回年次大会長をご担当くださった齋藤和子さんが7月24日に、現理事の野中猛先生が7月24日に、ご逝去されました。お二人の本学会へのご尽力に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約1,000名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 下記入会申込書にご記入の上、FAX か郵送で下記事務局までお送りください。
2. 入会金および年会費

正 会 員：入会金 1,000円 + 年会費 8,000円

団体会員：3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円(登録者名の変更は適宜可能)

(3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください)

振 込 先：郵便振替 名称：日本デイケア学会 口座番号：00170-8-167337

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F (有)エム・シー・ミュージズ内
日本デイケア学会事務局
TEL & FAX : 03-3813-6368
E-mail : info@daycare.gr.jp URL : http://www.daycare.gr.jp

----- キリトリ線 (ご記入いただき、郵送あるいは FAX で事務局までお送り下さい。) -----

入会申込書

(正会員用)

申込日 平成 年 月 日

氏名		性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日
職種		所属先名称 (勤務先)						
所属先所在地	〒			電話番号	()			

(団体会員用)

団体名		代表者						
所在地	〒							
種別		TEL	()			FAX	()	

デイケア従事者(計 名) ※デイケア従事者より会員登録となります。

氏名	フリガナ	氏名	フリガナ
氏名	フリガナ	氏名	フリガナ